

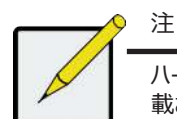
## 1: 開梱

VTrak D5000シリーズには以下が同梱されています。

- 以下のVTrak D5000シリーズのいずれかの本体

- VTrak D5600
- VTrak D5300
- VTrak D5800
- VTrak D5320

- クイックスタートガイド（本書）
- DB9-to-RJ11シリアルデータケーブル
- 1.5m（4.9ft）電源コード×2
- ラック取付用スライドレール一式



注

ハードウェア設置に関するその他の説明は製品マニュアルに記載されています。ハードドライブをドライブキャリアに設置しキャリアを筐体へ挿入する方法、および前面カバーの取付・取外し方法については製品マニュアルをご覧ください。

## 2: ラックへの取付け

VTrak D5000シリーズ筐体をラックに取り付ける前に、筐体の重量を軽くするためハードディスク付きのドライブキャリアを取り外します。

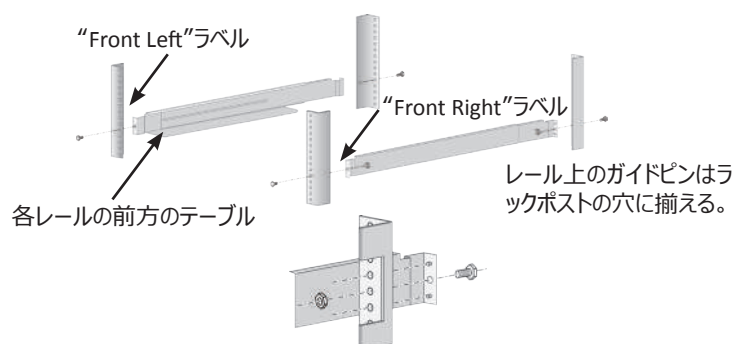


ご注意

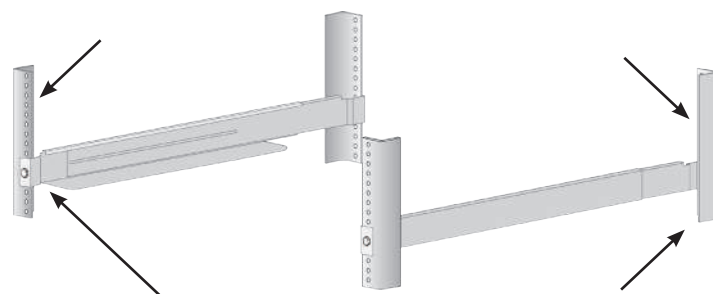
筐体の重量を軽くするため、全てのドライブキャリアを取り外してください。ユニットをラックに取り付けた後、ドライブキャリアを元の場所に戻します。

同梱の取付用レールを使ってVTrak D5000シリーズをラックに取り付ける：

1. 取付用レールがラックと適合しているかを確認します。
2. 取付用レールの長さを調節します。
  - 前方レールと後方レールは一体になっており、後方レールをスライドさせます。調整ネジなどは使用しません。
  - レールの前方には左右がわかるラベルが付いています。
  - レール前方の下側に本体を置くためのテーブルが内向きになっていることを確認します。
3. 前方と後方のレール両端はラックポストの外側に取付けます。



- レール端部のガイドピンを同じ高さのラックポストの穴に揃えます。
  - お使いのラック用のナットとネジを使用します。ラックの説明書に従ってネジとナットを締めます。VTrak D5000をレールのテーブルの上に置きます。
  - 安全に作業するには少なくとも2人必要です。
  - ハンドルを使ってサブシステムを持ち上げないでください。

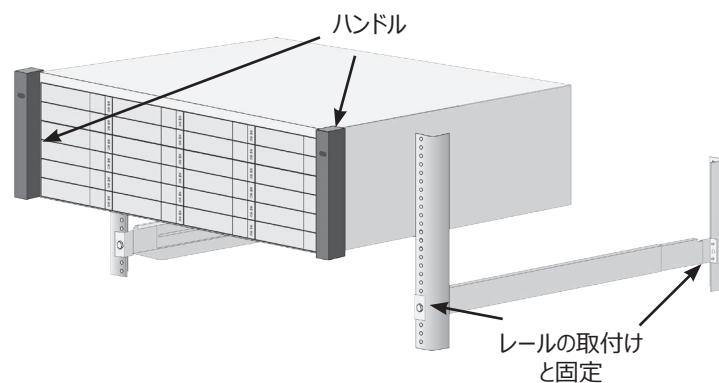


ラックポストの前方と後方の外側に取付けたレール

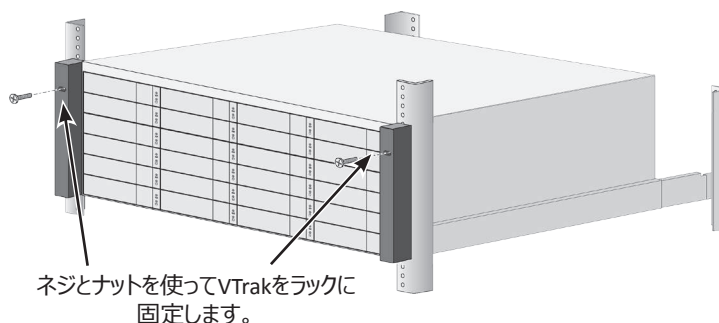


ご注意

安全に作業するには2人必要です。ハンドルを使ってユニットを持ち上げないでください。



3. 本体をラックに固定します。
  - ネジとナットを使ってユニットをラックポストに固定します。ネジは両側に1つずつ、上側のみです。
  - 筐体に同梱のネジとナットを使用します。



## 3: 管理接続

VTrak D5000シリーズ管理用インターフェイスについて説明します。管理インターフェイスは2種類あります。イーサネットとシリアル接続です。初期セットアップでは、RJ-45ネットワーク管理ポート経由でのイーサネット管理インターフェイスを設定する必要があります。

イーサネット管理ポート用にネットワークを構成する方法については、製品マニュアルをご覧ください。

また、VTrak D5000シリーズには、ターミナルアプリケーション（Microsoft Hyper Terminal等）経由のシステム管理用のコマンドラインインターフェイス（CLI）も備わっています。

CLIを使ったシステムの管理方法については製品マニュアルをご覧ください。

### VTrak D5000シリーズIOポート



\*ファイバチャネルが実装されていないモデルもあります。

### 管理ネットワーク接続

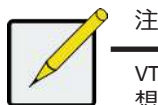
VTrak D5000シリーズの各コントローラには、1000BASE-Tイーサネットポートが2つ備わっています。MGMT 1（左側の1000BASE-Tポート）はシステム管理用で使用します。

管理ネットワークの接続方法：

1. 管理用コンピュータとネットワークスイッチをネットワークケーブルで接続します。
2. もう1本のネットワークケーブルで、MGMT 1ポートとネットワークスイッチを接続します。

VTrak D5000シリーズが複数台ある場合は、各ユニットで上記手順を行います。

「管理ネットワークとファイバチャネルSAN接続」の例は次の章の図をご覧ください。



注

VTrak D5000シリーズのRJ-45ネットワーク管理ポートは同じ仮想IPアドレスを共有しています。デフォルトの仮想IPアドレス10.0.0.1は、両方のコントローラの左側にあるRJ-45ネットワークポート(MGMT 1)に適用されます。仮想IPアドレスを変更すると、両方のネットワーク管理ポートに適用されます。

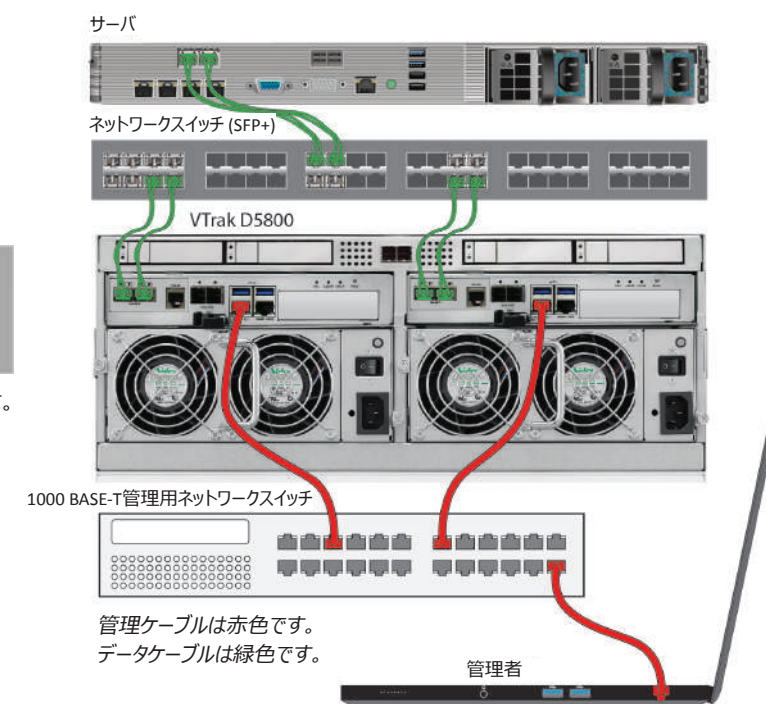
## 4: データネットワーク接続

### 光ファイバー(SFP+)データパス

VTrak D5000データネットワークには以下が必要です。

- 10G SFP+接続可能なコンピュータまたはサーバ
- すべてのSFP+ポート用のSFP+トランシーバ
- 10G SFP+ 対応ネットワークスイッチ (直接接続の場合は不要です)
- 光ファイバーケーブル (SFP+トランシーバの仕様に合わせる)

#### 管理ネットワークとデータネットワーク接続



管理ケーブルは赤色です。  
データケーブルは緑色です。

### SFP+ 光ファイバー接続

光ファイバーデータネットワークの場合：

1. ホストコンピュータまたはサーバとネットワークスイッチをSFP+トランシーバと光ファイバーで接続します。
2. VTrak D5000の10G SFP+ポートとネットワークスイッチをSFP+トランシーバと光ファイバーで接続します。VTrak D5000が複数台ある場合、同様にVTrak D5000とネットワークスイッチを接続します。

ダイレクト接続の場合：

1. ホストコンピュータまたはサーバにSFP+トランシーバと光ファイバーを接続します。
2. 光ファイバーの一端をVTrak D5000の10G SFP+ポートにSFP+トランシーバを用いて接続します。



## ファイバチャネルSANデータパス

VTrak D5000のファイバチャネルデータネットワークには以下が必要です。

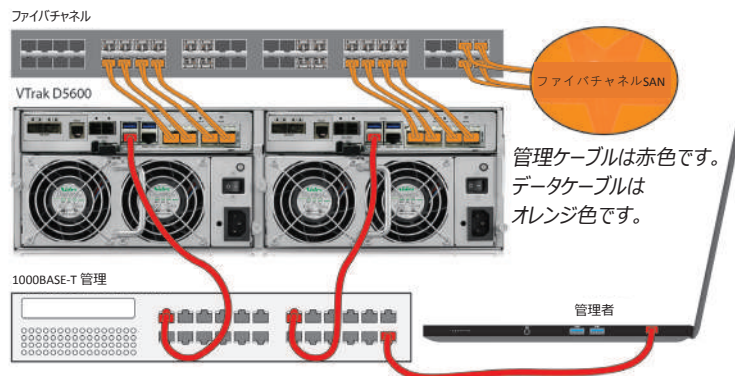
- ファイバチャネル接続可能なホストコンピュータまたはサーバ
- すべてのファイバチャネルポート用ファイバチャネルSFPトランシーバ
- ファイバチャネルスイッチ  
(直接接続の場合は不要です)
- 光ファイバーケーブル



### 重要

対応しているHBA、スイッチ、SFPトランシーバの一覧については、最新の互換性リストをダウンロードしてご覧ください：  
<http://www.promise.com/support/>

### 管理ネットワークとファイバチャネルSAN接続



## ファイバチャネルSAN接続

ファイバチャネルストレージエリアネットワーク (SAN) :

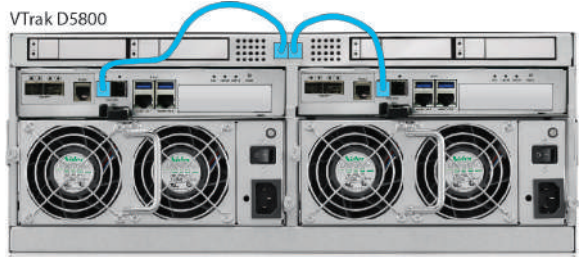
- ファイバチャネルHBAを装着したホストコンピュータまたはサーバとファイバチャネルスイッチをファイバチャネルSFPトランシーバおよび光ファイバーケーブルで接続します。
- VTrak D5000のファイバチャネルポートとファイバチャネルスイッチをファイバチャネルSFPトランシーバと光ファイバーケーブルで接続します。  
VTrak D5000およびホストコンピュータ、サーバが複数台ある場合、それぞれ上記手順で接続をします。



### VTrak D5800に関する重要な通知

VTrak D5800のSSDデータキャッシュを使用するには、背面のデータキャッシュ用ドライブスロットにSSDドライブをインストールし、下記のように各コントローラとSASケーブルで接続する必要があります。これはストレージ構成を行う前に実施してください。詳しくは製品マニュアルをご覧ください。

### VTrak D5800のデータキャッシュをSASで接続

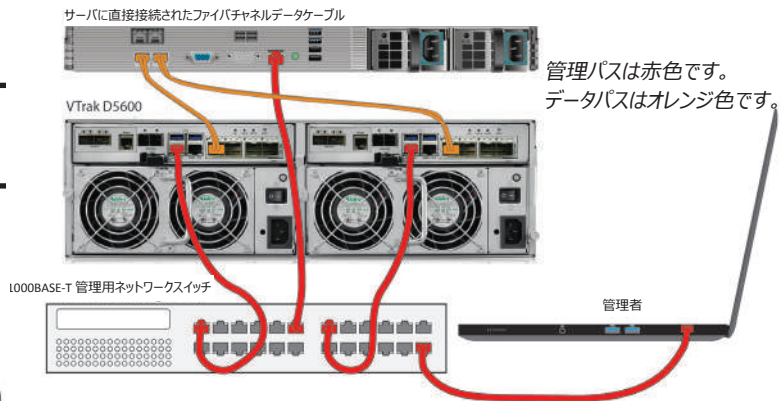


## ファイバチャネルDAS接続

ファイバチャネルダイレクトアタッチドストレージ (DAS) :

- ファイバチャネルHBAを装着したホストコンピュータまたはサーバにSFPトランシーバおよび光ファイバーケーブルを接続します。
- 光ファイバーケーブルの一端をVTrak D5000のファイバチャネルポートにファイバチャネルSFPトランシーバ経由で接続します。

### ダイレクトアタッチドストレージ (DAS) ファイバチャネル接続



## ファイバチャネルDASデータパス

VTrak D5000コントローラのファイバチャネルデータネットワークには以下が必要です。

- ファイバチャネルインターフェイスを備えたコンピュータまたはサーバ
- すべてのポート用ファイバチャネルSFPトランシーバ
- 光ファイバーケーブル (ファイバチャネルトランシーバの仕様に合わせる)

## 5: 電源接続

VTrak D5000シリーズは、2つの電源を備えています。それぞれの電源ユニット (PSU) にオン/オフスイッチがあります。両方の電源ユニットに適した電源に接続します。

2U VTrak D5300/D5320は、電源が接続され、電源ユニットのスイッチがオンになった時に電源が入ります。

3U VTrak D5600と4U VTrak D5800は前面に電源ボタンがあります。(次のセクション参照)

### VTrak D5600とVTrak D5800の電力供給



### VTrak D5300とVTrak D5320の電力供給



## 6: 電源

電源を接続すると、システムの電源を入れることができます。電源ユニットには、筐体を冷却するファンが搭載されています。システムを起動するためには両方の電源ユニットのスイッチを入れます。各電源ユニットのスイッチがオンの位置になっていることを確認します。VTrak D5300とVTrak D5320はこの操作で起動します。

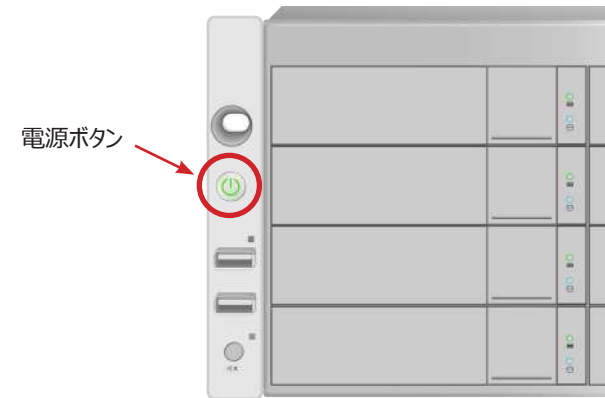
VTrak D5600およびVTrak D5800を起動するには、本体前面左の電源ボタンを押します (下図参照)。前面右のLEDを確認します。



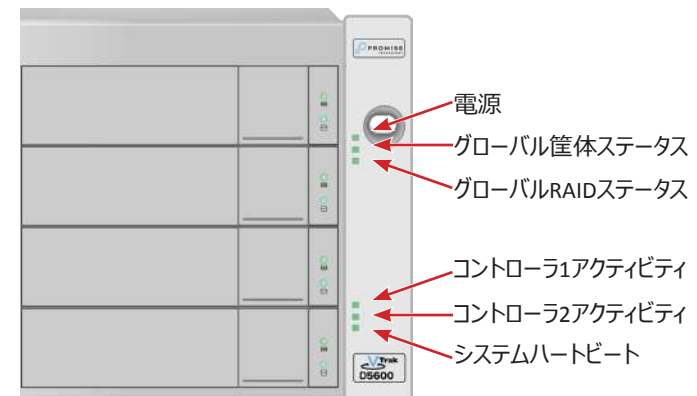
### 重要

システムにJBODご使用の場合は必ずJBODの電源を先に入れてください。

### VTrak D5600/D5800の前面左にある電源ボタン



### 本体の前面右のLED



## 前面LEDのステータス

起動が完了し正常に機能しているとき：

- 電源、FRU、物理ドライブLEDが緑色に点灯。
- コントローラアクティビティが行われているとき、コントローラアクティビティLEDが緑色に点滅。
- システムハートビートLEDが5秒間、毎秒1回緑色に点滅して10秒間消えた後、同じパターンを繰り返す。

各ドライブキャリアには2つのLEDがあります。これらは電源と物理ドライブ、およびドライブの状態を示します。

## 7: セットアップ

クイックスタートガイドの最終章では、基本的なストレージ構成を行うセットアップウィザードへのアクセス方法について説明します。セットアップウィザードは、WebPAM PROeウェブベースの管理システムで実施します。手動で構成する場合、またはシリアル接続でのセットアップについては、製品マニュアルをご覧ください。

システム構成に使用する管理用コンピュータを、VTrak D5000の管理用ネットワークポートにスイッチ経由またはダイレクトに接続します。管理者コンピュータのネットワーク設定を変更し、VTrak D5000のデフォルトIPと通信が行えるようにします。

VTrak D5000シリーズサブシステムのデフォルト仮想IPアドレスは10.0.0.1です。したがって、コンピュータのIP設定も10.x.x.xサブネットになるようにします。WebPAM PROeへのアクセスには、互換性のあるウェブブラウザでHTTP (https://) 接続を行います。VTrak D5000のIP設定は、お使いのネットワーク構成に合わせるよう後で変更できます。



### 重要

管理用およびデータ用ネットワークにDHCPを用いる場合、ネットワーク管理者に管理用ネットワークのIPアドレスを固定できるようご相談下さい。

## WebPAM PROeのログイン

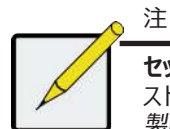
- ブラウザを起動します。
- ブラウザのアドレス欄にVTrak D5000のデフォルトIPアドレスである10.0.0.1をセキュアHTTPで次のように入力します：**https://10.0.0.1**
- デフォルトユーザ名とデフォルトパスワードを入力します：デフォルト**ユーザ名：administrator**。デフォルトパスワード：**password**。**ログインボタン**をクリックするとダッシュボードが表示されます。

## ウィザードを使用したストレージのセットアップ

管理者としてログインした後、セットアップウィザードを利用して、基本的なシステム設定とストレージ構成ができます。初めてストレージ構成を行う際には、1つ以上のストレージディスクプールまたはRAID構成になった一連のディスクが必要になります。少なくとも1つのストレージディスクプールの準備ができれば、セットアップウィザードを使用してプール上にボリュームを作成するかNAS共有を設定します。NAS共有とボリューム設定に関する情報は**製品マニュアル**をご覧ください。

基本設定にセットアップウィザードを使用するには：

- メニューの左パネルにある**Administration (管理)** をクリックします。
- Administration (管理)** メニューの左パネルにある**Setup Wizard (セットアップウィザード)** をクリックします。
- Run Setup Wizard (セットアップウィザードを実行)** ボタンをクリックしてセットアップウィザードを開始します。



### 注

**セットアップウィザード**の使用方法和、手動によるストレージ設定やその他の設定に対する詳しい説明は、製品マニュアルをご覧ください。